目次

巻頭言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　実用英語教育学会　会長　　　釣　晴彦

第12回 実用英語教育学会(SPELT)研究大会　報告
(2023年２月23日　Zoomによるオンライン開催)

テーマ：ビジョン3－16：2023年にふさわしい英語教育実践

1.講演

『Web 3.0 / Society 5.0 / メタバース時代の英語教育
-Dominus illuminatio mea-』

講師：小張　敬之　名誉教授（青山学院大学）

(報告　実用英語教育学会　杉浦　理恵)

2.その他

・　会員募集について

・　編集後記

巻頭言

実用英語教育学会　第１２回研究大会を終えて

実用英語教育学会会長　釣　晴彦
札幌学院大学人文学部 特別任用教授

２月 23 日の研究会は時間が少し不規則になりましたが,31 名も参加していただいた Zoom 研究会になりました。いつもオンライン研修会にもかかわらず，多くの方々に参加していただき感謝申し上げます。

この研究会には青山学院大学名誉教授である小張敬之先生に講演を依頼しました。先生は，ICT/Mobile Technologies を利用しながら，世界観の授業や，英語の授業で反転授業を実践しておられます。「Web 3.0, Society 5.0, メタバース時代の英語教育」というテーマの講演でした。EduTech の進化は，現代の教育に大きな影響を与えています。私が教員になった時とは隔世の感を禁じ得ません。英文タイプライターとガリ版で教員生活をスタートした時代ですから。思い起こせば，web1.0(1995～2005)では，ホームページを作成，検索，web2.0(2005～2018)では，Twitter, Facebook, Instagram, YouTube, web3.0(2019～現在 2023)では，他者との共同作業が出来る空間が一層進化した時代です。今後 web4.0, web5.0 の社会とはどんな状態になっていくのでしょうか？ AI との共存社会は想像もつかないことが可能になっているかも知れません。もうシミュレーションが出来ているようです。

昨年 11 月に公開された「ChatGPT」は，今大きな話題になっています。私も早速使ってみました。質問を文章で入力すると，どんなトピックでもネット上のコンテンツや書籍などから情報を組み合わせてかなり自然な文章で回答してきます。驚きの性能です。ただ，固有名詞にまつわる正確性が問われる質問にはかなり曖昧な回答をします。つまりデタラメな情報も出力するというわけです。過剰な期待は禁物ですが，間違いなく早いスピードでこれも検証され，進化し続けていくでしょう。コロナ感染のパンデミックの中でも情報社会は加速度を増して，発展してきました。今後，ITC との共存の中身が問われていくと考えます。小張敬之先生の講話の中で，VR 機器を活用した後のスピーキング能力の測定では，かなりの効果があるデータ結果になったと云われましたが，この結果は大変興味をかきたてられたと同時に驚きでもありました。まさに小張敬之先生の講演の内容は，今後の ICT 教育の展望や外国語教育の方向性を啓示するものでした。実用英語教育学会の事務局員が，分かり易く小張敬之先生の講演内容を要約してくれました。専門用語が多数ありますが，是非一読することをお勧めします。

小，中，高，大で教壇に立つ会員が，なぜ外国語教育をするのかというビジョンを相互に明らかにして，つながり，情報や手法を共有して，さまざまな領域と水準における英語教育の実践と研究を行い，共に学んで歩んで行ければ幸いです。今後も皆さんのご指導，ご支援を一層賜りますようお願い申し上げます。

第 12 回研究大会 ＜講演＞

Web 3.0 / Society 5.0 / メタバース時代の英語教育 -Dominus illuminatio mea-

講師：小張　敬之　名誉教授（青山学院大学）

講演者プロフィール

専門は，応用言語学や教育工学。特に，CALL（コンピュータ支援言語学習），TESOL（英語教授法），世界観教育，EduTech など。近年は，日本の英語教育における AI や VR，ICT／モバイル技術の活用についての研究を行う。国際基督教大学にて修士号（国際関係論），コロンビア大学にて修士号（英語教育・応用言語学），筑波大学にて博士号（工学）を取得。青山学院大学 経済学部教授などを経て，2021 年 4 月より名誉教授・客員教授。オックスフォード大学客員研究員（1998，2007，2018）。そのほか，産業技術総合研究所客員研究員，早稲田大学法学学術院非常勤講師，東京工業大学大学院理工学研究科非常勤講師，明治大学法学部非常勤講師，早稲田大学商学学術院非常勤講師も務める。

研究業績　https://researchmap.jp/read0044220

小張先生は，英語をコミュニケーションの手段としながら，世界観教育，異文化間コミュニケーション教育，AI / ICT 等を利用した教育を長年にわたり実践してこられました。今回，小張先生の貴重な実践例のご紹介も頂きながら，「Web 3.0 / Society 5.0 / メタバース時代の英語教育 -Dominus illuminatio mea-」という演題でお話し頂きました。最新のテクノロジーの英語教育への活用や文理融合の重要性，英語教育の目的等，教育の根幹を考える機会となりました。

以下，ご講演の内容の一部をご紹介します。

1．VUCA の時代の英語教育

Web 3.0 / Society 5.0 の時代に入り，VR / AI を利用した 21 世紀スキル等も含めて，新たな教育の時代に入りつつあります。AI の進化が進み AI Speaker や Learning Analytics 等の教育への応用，自然言語処理を応用した Deep L，Trinka，Grammarly 等，最近は学会等で Mozilla Hubs，Gather.town，oVice 等の 2D が使用され，さらに VR を利用した 3D 上における英語教育も行われています。EduTech の進化が教育にも大きな影響を与えている時代です。このような時代に，学んだことを忘れても，それでも残っているものをどのように英語教育で実践していけばよいのでしょうか。本日は，EduTech を利用した英語教育のいくつかの授業を紹介しながら，最新のデジタルテクノロジーや文理融合の重要性についてお話をしていきたいと思います。なお，演題の -Dominus illuminatio mea-（The Lord is my light.）とは，オックスフォード大学のモットーであり，青山学院大学もその流れを汲んでいます。

現代は VUCA の時代と言われています。VUCA とは「Volatility（変動性）」，「Uncertainty（不確実性）」，「Complexity（複雑性）」，「Ambiguity（曖昧さ）」の頭文字をとっているアクロニムです。つまり VUCA の時代は，産業革命・市民革命から始まった近代化を卒業して以降，250 年ぶりの世界・人類・歴史の大変換期であり，新たな創造の時代です。物質文明の中，GDP 至上主義から，幸福の再定

義が必要な時期です。Einstein が "Education is what remains after you have forgotten what you have learned in school." と言ったように，知識を得ても忘れることはあるが，真理というものは残るものと思います。また，Dewey は著書である Experiential Learning の中で，"If we teach today what we taught yesterday, we are depriving our children of tomorrow." と言っています。私たちも，テクノロジーの進化に応じて Small Change が必要ではないかと思います。

さて，皆さんはどこへ生徒を英語教育を通して導いてあげたいと思いますか。どうしたら，VUCA の時代，「学んだ事を忘れても，それでも残っているもの」をどう英語教育で実践したらよいと思いますか。そして，どのような Educational Technology を利用した英語教育をしていますか。こういった３つの質問を念頭に，話を進めていきたいと思います。

２．時代の変化と教育

誰でも何かを信じて生きており，人生の羅針盤があると思います。VUCA の時代は，これまでの羅針盤を再考する時期にきているかもしれません。1988 年に GDP２位だった日本は，2021 年には 28 位となっています。人が情報を解析していた Society 4.0 から，サイバー空間でビッグデータを AI が情報を解析する Society 5.0 へと変化してきました。Society 5.0 は内閣府の定義によると，人間中心の社会です。ただこの「人間中心の社会」という捉え方は国によって異なるのではないかと思います。例えば，日本の国葬と英国の国葬を比較すると，人間中心の社会と神を畏れ生きる社会の相違が見てとれました。そういった相違や変化を踏まえた，英語教育が必要だと思います。

DX（Digital Transformation）も組織が根本的に変化するプロセスとして，進んできています。Web 1.0 時代（1995-2005 年）は企業や個人のホームページや電子メール，Google や Yahoo などのように，Web に情報が掲載されている一方向のコミュニケーションが主でした。Web 2.0（2005-2018 年）に入ると，読み取りと書き込みが可能になり，Twitter や YouTube，Facebook，Instagram などの参加型のものになってきました。ただ，相互運用性に重点があるため，中央集権的な情報社会となってきました。2018 年以降の Web 3.0 では，他者との Collaboration が可能となり，非中央集権化で多方面のコミュニケーションが可能になり，バーチャル優先となってきました。Metaverse とは Meta（超えた）Universe（世界，宇宙）の意味ですが，Metaverse はインターネット上に存在する仮想の「空間」であり，VR 機器の有無に関係なく利用可能です。一方，Virtual Reality は専用ゴーグルをかけて仮想空間を現実のように感じ取れる「デバイス」や「技術」であり，VR 機器が必要です。こういった様々な新しいテクノロジーが人類にもたらす未来は，驚くべきものになると考えられます。

３．パラダイムシフトの必要性

AI / Big Data / DX の時代の変遷のただ中で，教育もパラダイムシフトが求められています。また，Covid-19 の影響で，海図のない航海をしているかと思います。羅針盤のない世界で，パラダイムシフトを経験せざるをえない状況を今後どうすれば良いのでしょうか。それにはしっかりした世界観を持つ事が必要だと思います。パラダイムシフトの本来の意味は，思考パターン・価値観・考え方を変革することであり，「メタノイア」，「悔い改め」という聖書の言葉に由来しています。神と人に愛され押し上げられ，周りの人を巻き込みながら本来のステイタスに戻っていく過程と言えます。

この答えのない時代において，日本の教育の転換期では，次のような事柄が必要になってきます。21 世紀スキル（これからの時代に求められている人間像），上位思考（Critical Thinking, Innovation, Creativity），AI / Big Data を活用する力（Learning Analytics 等），自律型の探究学習（自分で学びたいものを探して学ぶ），協調性（仲間と答えを見つける），PBL・CBL（課題解決・挑戦型学習），世界観・存在論・認識論・科学哲学（存在をどう認識）です。また学びの場も，ネット空間，現場での学び，教室での学びという３つがあり，多様になっています。

４．英語教育と世界観

さて，私たちは語学をなぜ学ぶのでしょうか。英語を勉強する理由にはいくつかあります。「文化 / 世界観を学ぶ」，「自分とは何か」，「生きる意味とは」，「人間とは何か」，「AI と人間」など，考えるべき点が多くあります。また，英語を使って何を話すかという内容が大切になってきます。

このような中，教師の役割も変化し，Facilitator，Curator，Mentor となってきています。多様な社会を生き抜く力を育て，成功や幸せの価値観を変えることが教育の目的です。ここで John Lennox 教授の３つの問いを紹介します。大学で学ぶということは，こういったことを徹底的に考えながら自分の専門を見極めていくということです。

How do you see the world?　（世界観: 世界をどう見るか）

1）Where do we come from?　（人類はどこから来たのか）
2）What are we here for?　（何故ここに存在しているのか）
3）What is the meaning of our existence?　（人生の存在の意義は何か）

◇参考図書: John C. Lennox，森島康則 訳.（2017, p.12）『科学ですべて解明できるのか?』いのちのことば社.

私の教育哲学は，AI や ICT など最先端の技術を用いて英語力を鍛え，同時にものの見方や考え方を幅広くし，自らの世界観を持たせる，といった３つのことを融合させながら，自分の Identity を確立させていくというものです。VUCA の時代は 21 世紀スキル（Trilling & Fadel, 2009）が必要になってきます。今後 20 年間で現在の仕事の 60%を AI やロボットが代替えする時代と言われています。AI が代替えできない仕事は，「心の理解」が必要なものです。Singularity（AI が人類の知能を超える転換点（技術的特異点）は 2045 年に到達するのではないか，と人口知能の権威者であるカーツ・ワイル教授は予測しています。

◇参考文献: Trilling, B., & Fadel, C. (2009). *21st Century Skills: Learning for Life in Our Times*. San Francisco, CA: John Wiley & Sons.
カーツ・ワイル『シンギュラリティは近い - 人類が生命を超越するとき』ＮＨＫ出版

私は 2019 年の春に客員研究員として，オックスフォード大学の St. Cross College に滞在しました。その際, 信仰と学問をどう捉えるかを討論する DCM Conference に参加し，Natural Science Stream（Evolution and Christian Faith, Artificial Intelligence に出席しました。そこで，AI の専門家である Tarassenko 教授に，「AI は人間のような頭脳を持つようになるのか」，と質問しました。回答は「神が人に息を吹きかけて人間となった。神が AI に息を吹き込んで AI が人間になることが可能か」，という聖書の創世記の立場からの考えでした。一方で，生物学者の Dawkins は，聖書の神はうそであり，進化論 / 無神論を信じている学者です。Magrath 博士は，分子生物学で博士号を取得しましたが，この世界には背後に創造者がいるのではないかと考え，神学でも博士号を取得しています。彼は Science and Religion の著名な教授です。つまり，オックスフォード大学では，進化論者もいれば創造論者もいるのです。

これからの教育には，科学哲学を理解することが必要です。Rom Harre 教授は私の恩師ですが，彼の科学哲学によれば，以下の３つの領域があります。最も重要な領域は，第３の領域です。今までノーベル賞を受賞した研究は，第３の領域に焦点を合わせていました。ですから，第３領域に学生の焦点を当てることが大切だと思います。

領域１:　人の五感で認知・観察できる領域　（Observation 観察）
領域２:　特殊な器具・道具を使用して認知・観察できる領域　（Analogy 類推）
領域３:　五感 / 道具・器具，科学の粋を集めても認知・観察できない領域

（メンタル，宗教，精神的，科学も含めて，未知の領域）　　　　　（Hypothesis 仮説）

さて，皆さんは，どのような世界観を持っていますか。学生たちにどのような世界観を持ってほしいと考えていますか。世界経済の動きには，宗教が影響しています。文化を知るためには，宗教を知ることも大切です。人がそれぞれ持っている「人の心の根底にある価値観」をつくる大きな要素が宗教だと思います。

◇参考図書： 山中俊之 （2019） 『世界の五大宗教入門』 ダイヤモンド社

グローバルリテラシーという言葉をご存じでしょうか。相手の思考・価値観を理解して会話を構築していく力のことです。21 世紀の国際人には，核になる信念を持った，グローバルリテラシーが必要です。異文化の価値観を理解する CQ（Cross-cultural Quotient） も重要です。

５. 実践例の紹介

青山学院大学で VR を使用した実践例を紹介します。青山学院大学での VR の使用は，私が 2018 年に開始しました。2022 年には，VR を用いたレッスンを６人の CCC（Campus Crusade for Christ）と実施しました。真面目に取り組んだ学生は，TOEIC や OPIc の成績も向上しました。また，アバターを用いているため，言語使用の不安感が軽減されるという効果もありました。その他の実践においても，授業では少数グループでのアウトプット中心の活動を実施し，アクティブな反転授業を徹底的に行いました。なお過去の実践例については，Colpaert, J and Stockwell, G. (Eds)（2022）*SMART CALL*. Castledown. の書籍に掲載しています。

2019 年から 2020 年にかけては，AI Speaker を使用したグループと，使用していないグループを比較しました。その結果，AI Speaker を使ったほうが TOEIC のスコアが向上していました。学生のアンケートからは，AI Speaker が英語学習のリスニングやスピーキングの力を伸ばすと評価していました。また，反転授業の効果はすべての学生が認めていました。

東京工業大学大学院での実践では，世界観の育成を試みました。世界観に関する論文を３本読み，英語でスライドを作成し，プレゼンテーションをすることを課題としました。海外からのゲストのオンライン特別講義を聴かせる機会も設けながら，領域３の未知の発見をするように指導しました。

国際共同学習（COIL）では，早稲田大学法学大学院と国立シンガポール大学の学生が交流を行いました。コロナ禍以前には，学生を引率して国立シンガポール大学を訪問し，交流も行っていました。コロナ禍では，オンラインで国際交流や英語でプレゼンテーションを行ってきました。

教師の役割は，Curator に変わってきています。私の実践では，Social Media を上手に使用し，Facebook や Line で Digital Storytelling を共有してお互いに視聴できるようにしてきました。学生が準備した PBL Project の課題発表を native speaker が PeerEval という評価ソフト（PeerEval.com）利用して評価し，質疑応答を通して，feedback するといった活動も行いました。早稲田大学の受講生のアンケートからは，「海外の学生とのインタラクションすることで世界観が拡張した」，「英語を話すことに慣れた」，「英語を使うことが楽しかった」，といった意見がありました。

６. 21 世紀の国際人の養成と世界観の必要性

21 世紀の国際人の養成には，SNS を大いに活用し，海外の学生をクラスに招待するなどコラボレーションとインタラクションをしていくことが必要です。国際共通語である英語を用いて異文化コミュニケーションをする際，多彩な文化を相手にしていることを踏まえ，相手を理解することが大切です。特に非母語話者と非母語話者のコミュニケーションが多いため，相手に通じる英語を使うことが必要です。

私が英語を学んできた理由は，「自分の世界を広げ，他国の人々と交流し，異文化を楽しみ，自分の専門を確立し，自分の人生観を見直し，真理を探究する」ためでした。英語との出会いは，Dominus

illuminatio mea-（The Lord is my light.）との出会いでもありました。新しい世界観，すなはち，命の尊厳，存在の意義，人生の目的，希望，光（詩編 27：１）への窓口となりました。学校教育では，知識は教えてくれますが，人生の意味，命の尊厳さ，どう生きれば良いのか，は教えてはくれません。そういった意味で自分の世界観（神観）を確立することが重要だと思います。

（文責：杉浦）

お知らせ

◆研究会の開催日（予定）について

第 12 回研究会は 2023 年 6 月頃に開催することを予定しております。詳細につきましては，後日あらためてお知らせいたします。

◆会員募集について

実用英語教育学会では，新会員を募集しております。年会費は 4,000 円です。会員の皆様は，研究会や大会の参加費が無料になる他，口頭発表および論文発表の発表資格を得ることができます。SPELT の情報は下記の HP でご覧いただけます。

実用英語教育学会ホームページ　　http://spelt.main.jp/

◆紀要への投稿について

実用英語教育学会では，年に一度，実用英語教育学会紀要（*SPELT JOURNAL*）を発行しております。投稿を希望される方は，9 月 30 日までに申し込みをお済ませください。詳しくは本学会のホームページの『*SPELT JOURNAL* 投稿規程』をご覧ください。

◆編集後記

小張敬之先生がご講演で述べられていた，人生の意味や自分の世界観を英語教育でどのように扱っていけば良いのか，という課題を胸にとどめて新年度を迎えたいと思います。今後も会員の皆様と英語教育について考え，議論する機会を SPELT で持ちたいと計画しています。ぜひご参加ください。

（杉浦）

実用英語教育学会
編集：*SPELT Newsletter*　編集委員（杉浦理恵）
発行：2022 年 3 月 31 日
事務局：　〒065-8567　札幌市東区北 16 条東 9 丁目 1 番 1 号
札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科 石川希美 研究室内
TEL:　011-742-1651（代）　Fax:　011-742-1654（代）
Email: spelt.info*gmail.com　　*を@にしてください。